サンプル版スパンキングストーリー

『ダイエットトレーナー』FM

美香は母親から成人式にと・・・譲り受けた着物を着るために最低でも５～７キロは

痩せる必要があったが、その成人式まであと２週間と迫ってしまった。

そんな折、知人から”必ず”目標体重を実現できるトレーナが在籍するスポーツクラブを紹介された。

一見、極々普通のクラブにしか見えなかったが・・。

コミットメントコースは、入会金は無料で更にマイナス５キロまでは、完全無料のコースで、そこから

－５００グラム毎に５千円支払うといった変わったシステムだった。美香は何となく自信あり気な！？

そのシステムに身を任せて見ようと思い。思い切って、入会申し込み

用紙にサインを済ませ噂のトレーナーと細かい面談を始めた美香だった。

『えぇ～っと・・美香さんは成人式の前日までにマイナス８キロを目指す訳ですね？

日程的にも、数字的にも全く問題ありません。では、こちらの覚え書きに目を通して貰って

一番したへ署名して貰えますか？もう時間はありませんっ早速、今夜から始めます』

＜このコースは一般の入会申し込み書の他に個別にトレーナーとの
取り交わしみたいなモノに納得しサインしなければならなかった・・
最初の数行は、どこにでもある様な文面だったが、その先を読み続けると、
そこには直ぐに理解し得ない内容が書かれていた。その内容とは・・＞

”あのぉ～・・山口トレーナー？これって完全にプライバシーって・・言うかぁ～、

何故？他人のあなたに門限や朝寝坊まで・・それに・・

暴飲暴食。。まぁ・・これはなんとなく判りますが・・とにかく何故？
そんな細かいプライバシーを報告しなければならないのでしょうか？
あと・・こちらにあるペナルティールームで行われる”懲罰”これって・・
いったい、なんなんです？”

『ペナルティールームは、ほらっ、向こうにある分厚い扉の向こうにある部屋で、

このコースには欠かせない特別なプログラムで判り易く説明するために”懲罰”と書いてますが・・

まぁ・・約束を守れなかった時のお仕置きをする部屋と思って頂いて結構ですよ。

あぁ・・もちろんこのトレーニングルームは防音ですし、このコースは夜の９時オープンなので、
他の一般のお客さんは既に帰宅した後ですので、存分に反省も出来て効果抜群なんですよ♪』

＜山口は懲罰とかお仕置きとか・・そんな一瞬、耳たぶが赤くなる様な
言葉をサラッと言って見せた。その雰囲気に呑まれたのか！？

妙に上手く納得させられた感じで、申し込み用紙へサインをすることになる＞

『それでは、サインも済んだし・・早速ペナルティールームでコミットメントして頂きますねっ、

このコースのユニフォームは中にあるロッカーにありますので、そこで着替えてお待ち下さい』

＜彼女は山口の言う通り、その部屋の扉を開けた・・そこは何処か？
薄暗く、ロッカーは一番奥の右角に・・そしてその手前に一人用の腰掛・・
壁には、なにやら見慣れぬ布団叩きの様なモノ、更には卓球のラケットを
大きくしたみたいなモノや竹製？の長い棒が整然と引っ掛けられていた・・
中でも、もっとも、見慣れていない？・・それは部屋のど真ん中に漠然と
立たずんでいた”木馬”だった＞

数分後・・・

『着替えは済んでますね・・あっ！この部屋少し薄暗いでしょ！？
でも、美香さんは全然、気にする事はありませんよ。何故ならこの部屋にいる時は、
殆どアイマスクで目隠しをしますので完全に暗闇となります』

”はぁ・・で・・この真ん中にある木馬・・！？いや、”あん馬”に使う？
みたいなあれはなんですか？”

『これは、アイマスクをしてからセットしながら説明しますね、それでは・・

このアイマスクをして目の前が真っ暗になりますので、今から私の指示通りに
身体を動かしなさいっ！』

＜アイマスクをした途端、何故か？山口の口調が厳しくなった・・
元々甘いマスクの山口にはとても似合わない感じだったが、彼の顔が見えない今、
恐怖さえ感じたのだった。更に厳しい口調で指示は続く・・＞

『目隠しをしたら、早くお仕置き台を抱きなさいっそうっ・・両手を前に出して・・
直ぐに固定してあげるからねっ、顔は・・その丸い穴の中へ・・すっぽり入ったら、
そのまま動かさない様にねっ！』

＜美香は両手、両足はもちろん顔や首までも完全に添え付けてあったベルトで固定され、

今や自由になるのは口だけだった・・覚書へサインしてから、ホンの１０分たらずの事だった・・

今更ながら後悔の念が頭の中をフルスピードでグルグルと巡り始めたのだった・・＞

『さぁ！美香っ！これから、このお尻で完全にコミットして貰うからなっ、
成人式まで本当に痩せたいのか？君の心の言葉が聞こえるまでマジでスパンキング
するから覚悟する事。先ずは手始めにトレパンの上からラケットで行こうかぁ～ッ！』

ぱぁ～んっ！！

”きゃぁ～っ！！”

＜上は赤のランニング、そして下はトレパンと言ってもナイロン製でとても薄い生地のブルマだった＞

ぱぁ～んっ！！ぱぁん！ぱぁんん！！

『きゃ～っ、じぁないだろぉ・・きゃ～、じゃっ！平手やスパンキングラケットぐらい
歯を食いしばって我慢しなきゃ～・・布団叩きになったら、いったいどんな声を出すのか
心配になってきたよぉ～、まぁ・・この部屋は完全防音だから、いくら叫んでも良いけどね♪
しかし僕自信に”耳栓が必要だなぁ～、はははっ』

＜根っからスパンカーだった山口には美香の泣き声も楽しみの一つだった。
彼女は小さい頃の遠い記憶の中で親から確かにお尻丸出しで叩かれた記憶はあったが、
今から山口が始めようとしている行為は完全に想定不可能だった。いずれは完全に
剥ぎ取られるであろう、ナイロン製のパンツの上から時折、尻タブを掴まれたり
撫でられたりするが、それは優しさや暖かさからされる行為でない事は確かだった＞

『さて・・そろそろコミットして貰おうかぁ～、先ず始めに・・目標の８キロダイエットを達成するまで、

一日たりともトレーニングを休んだりしないと、宣言して貰うからねっ。そうだなぁ～”目標達成まで
絶対に休みませんっ”これを僕の心に響くまで”言い続けてみよっかぁ！』

＜山口はそう、美香に言い放つと壁から木製スパンキングラケットを手に取った。
そのラケットの冷たくツルツルとした面を彼女の頬へ軽く当てて、いかにもこれから、
これでお尻叩きをすると言わんが如くの様になぞった＞

『いいかい！？２週間足らずで８キロもの減量は簡単な事じゃないんだよ・・
しかもリバウンドもせず・・だから、しっかり心の底からやり遂げる思いを
聞かせて欲しいんだよ・・判るだろ・・。』

＜ラケットをとおこの背中へ一旦置くと・・これから叩くお尻の部分だけ
見えるまで彼女のパンツを下げると、尻タブの硬さを掌で確認していた＞

『うんっ！これなら結構持つんじゃないかぁ～』

ぱぁ～んんっ！！

”やぁ～ッーーあああああっ”

＜そして続けざまに・・それはまるで卓球の素振りの練習でも始めたかのようだった・・＞

ぱぁんっ！ぱぁん！！ぱんっ！ぱんっ！
ぱぁんっ！パン！！パチンッ！ぱんっ！

”あぅッ、痛いッ！あぁ、痛いッ！いたぁ～いッ！！”

ぱぁんっ！ぱぁん！！ぱんっ！ぱんっ！
ぱぁんっ！パン！！パチンッ！ぱんっ！

″ひぃーーッ！もう、お尻かんにんしてぇ～ッ！！″

ぱぁんっ！ぱぁん！！ぱんっ！ぱんっ！

ぱぁんっ！パン！！パチンッ！ぱんっ！

ぱぁんっ！パン！！パチンッ！ぱんっ！

ぱぁんっ！ぱぁん！！ぱんっ！ぱんっ！

ぱぁんっ！パン！！パチンッ！ぱんっ！

″ゆるしてぇ～ッ！おねがいぃ～ッ！！″

″ひぃえぇ～、やっ休みませぇ～んっ！！絶対トレーニング、休まないからぁああっ！やぁ～っ！″

ぱぁんっ！ぱぁん！！ぱんっ！ぱんっ！

ぱぁんっ！パン！！パチンッ！ぱんっ！

ぱぁんっ！ぱぁん！！ぱんっ！ぱんっ！

『まだまだぁ～、全然伝わらないぞっ！』

ぱぁんっ！ぱぁん！！ぱんっ！ぱんっ！

ぱぁんっ！パン！！パチンッ！ぱんっ！

ぱぁんっ！ぱぁん！！ぱんっ！ぱんっ！

ぱぁんっ！パン！！パチンッ！ぱんっ！

ぱぁんっ！ぱぁん！！ぱんっ！ぱんっ！

ぱぁんっ！パン！！パチンッ！ぱんっ！

＜美香の尻はあっと言う間にランニングの朱色と見分けがつかない程真っ赤になっていた＞

『本当に絶対休まない？』

”ハイっ！絶対にっ！絶対に！休みませんっ”

『じゃぁ・・次っ・・家にいる時はもちろんだけど、外出中での暴飲暴食をしてしまった時も

正直に僕に報告する事を誓えるかなぁ～？』

”も・・もちろんですっ！！”

『嘘だな・・』

ぱぁんっ！ぱぁん！！ぱんっ！ぱんっ！
ぱぁんっ！パン！！パチンッ！ぱんっ！
ぱぁんっ！ぱぁん！！ぱんっ！ぱんっ！
ぱぁんっ！パン！！パチンッ！ぱんっ！

”ひぃぁ～ーーー堪忍してぇーーーッ、何でも報告しますからぁーーーぁ！！”

『うぅ～ん・・全っ然、響いて来ないなぁ～っ僕も少し右腕が疲れたから、
暫くはスパンキングマシーンと交代だな・・２０分・・いや・・３０分だな』

”なっ・・何をセットしたんですか・・えぇ？”

＜山口は独り言のようにスパンキングマシーンのタイムをセットすると、ゴロゴロとタイヤの音をさせながら、

マシーン引っ張って来ると、今度は彼女の尻と革のベルトの様なモノが水平になる様、微調整した。

革とは通常のベルトより太い感じでかなりの硬い素材だった。動き自体はとても単純で、
単に勢い良く回転するだけのマシーンでトレーニングマシーンを改良すれば誰でも作れそうな、

そんな代物だった。また、タイマーと言っても電源のスイッチがオン、オフになる程度のもので

１０分～１２０分・・そして”連続”の何類か、調節が出来た。今回３０分としたが、回転

スピードを考えると１分当たり２０発～３０発は彼女の尻だぶへヒットする事になるだろう＞

『さぁ～、美香、お尻叩き専用マシーンをセットしたぞぉ、このマシーンは、これから僕の手やスイングで

腰とか疲れた時など、度々使うからお尻の痛みの感覚を覚えて置くと良いよ。そうだなーぁ・・だいたい、

みんな・・１０分を超えるとお尻の感覚が変化するみたいだよ』

＜すると、予告もなしにマシーンは勢いよく回転を始めた＞

パァンッ！パァンッ！パァンッ！パァンッ！

”ひうぁあああっ！痛ぁああいっ！ああぁーーッ！！ッああぁーーッ！！”

『ダメダメ・・いくら、泣いたって、一度動き出したら時間が来るまで止めないよっ』

パァンッ！パァンッ！パァンッ！パァンッ！
パァンッ！パァンッ！パァンッ！パァンッ！

”うぎぃ～いいいっ！ごめんなさぁ～あああいっ！ごめんなさぁ～い！止めてぇ～、止めてぇ～っ！”

『だからぁ～、止まらないんだって～、言ったろぅ』

＜山口は彼女の横顔の直ぐ近くに椅子を寄せて腰掛けるとスポーツ雑誌を片手に、読み始めたではないか。
それは、まるで美容院の順番でも待つかのようにも見える・・。もちろんその間もマシーンは冷酷に回転し乾いた

音を響かせながら美香の尻たぶの中心へ正確に容赦なく打ち据え続けられていた。罰とは普通、何か不味い事や
失敗をした後に精神的、また肉体的に受け心の奥深く楔（くさび）を打つものでまだ、何もお咎め（おとがめ）が
無い人間に施しても効果など見込めるモノでは無い・・これが普通の考え方だ。なのに、後に仕出かすであろう

失態を予測し、何処までも予防の為と言って、ここまでするだろうか・・しかし。この山口式ダイエットトレーニングは

功をそうし未だかって未達成者ゼロを誇っていたのだから誰もその部屋の存在を認めざる得なかったのだ＞

ぱぁ～んっ！！ぱぁ～んんっ！

”ひぅぁああああっ～ああっ”

ぱぁんんっ！！ぱぁ～んっ！！

”トッ・・トレーナー！もう・・お願いっ～ッ！こんな惨い機械止めて下さぁ～いっ！”

ぱぁ～んっ！！ぱぁ～んんっ！

『時間が来れば黙っていても停止するから安心しなさい。そんな事よりも幾つか？

質問するから正直に答えるように。』

ぱぁんっ！ぱぁ～んんっ！

”ひぃ～いいっ！こ・・こんな状態で・・お尻をぶたれながら、質問だなんて・・”

ぱぁんっ！ぱぁ～んんっ！

”あぐぅ～うう・・も、もう・・止めてぇ・・はぁ、はぁーッ”

『ここ７日間の生活で自分で悪い事をやったと・・そう自分で感じた出来事を全部言ってご覧っ』

ぱぁんっ！ぱぁんんっ！

”そ・・そんなの一度もありませんよぉ～っ！”

『嘘を言えば・・そうっ！自動的にマシーンの回転が早くなって、それだけお尻の痛みも増すけど・・良いかな？』

ぱぁんっ！ぱんっ！パン！ぱぁん！

”ひぃ～いいいいーーごめんなさぁ～いっ！”

＜スパンキングマシーンにそんな機能など当然ある訳が無く、単に１０分以上叩き続けられた尻があたり前の様に

痛みに敏感になっただけだった・・もちろん、彼女は、そんな事すら判断出来ない状態で、頭の中は既に真っ白で

自分の尻を叩く乾いた音と同時にやってくる痛みに対して数センチさえ逃げる事が出来ない情けなさと次々に聞こえてくる山口の冷酷な言葉責めの恐怖で涙も数珠つなぎとなっていた・・＞

『うぅ～んん♪いいねぇ～っ！段々泣き声が本物になってきたぞぉ～、もう・・とおこは嘘をついたり、

余計なカッコをつけたりしないね！？』

”うぇ～んん、もうお尻許して下さぁ～いいっ！なんでも話ますからぁ！

門限も破ったしぃ～・・あっ・・あと・・ママが買ってきたケーキも摘み食いしましたぁ～っ、

もう絶対にしませんっ！だから・・”

『よしっ！少し早いけど、止めてやろうね～』

＜美香はその言葉で安心したのか！？つい！？お尻の力をふと抜いたものだから、

最後の数回はマシーンの威力がまともにお尻へと受けてしまった・・＞

”うがぁああっ！止めてぇ！止めてぇ～っ！”

＜さらに、彼女は信じられない宣告を山口から受けたのだった。ただでさえ・・自分の尻が・・

今、どんなに無残に傷を負ってるかを確認したかったのに・・山口はそんな思いを無視するかのように＞

『さぁて！それじゃ、今夜の仕上げに・・今、僕に正直に話してくれた、
門限破りと摘み食いの罰を与えなくっちゃっ、ケインで５０発だなッ』

”ふぇ～んんっ！ケインって何ですかぁ～！？もう、お尻の全部が痛いし、
風が当たっただけで、ヒリヒリするのにぃ～っ、お・・お仕置きは少し後で・・
せ・・セメテ・・１０分だけでもいいですから休ませて・・”

『こらこらっ、今すぐ叩くから効果効能があるって言うのにっ！
お仕置きを待ってなんて・・生意気言うんじゃないのっ！ほらッ、
しっかり歯を食いしばってないと気を失っちゃうかもしれないぞッ』

＜この時、山口は何の躊躇もする事なく壁に引っ掛けて置いた長めのケインを手にすると、

何度となく、空を切りながら試し振りをし始めたのだ＞

ビュンッ！ビュン！！ビュン！！

”いやぁ～っ！そんな棒で打たないでぇ～っ！”

『あれれっ！？真下しか見えないのに・・良ぉく、これが竹の棒だって事が判ったねぇ～、やっぱり、

あれだけお尻を叩かれると、次のお道具にも相当敏感になってしまうんだねぇ～、一つ勉強になったよぉ～♪

じゃぁ、次はケインでお尻がミミズ腫れになるまで、たっぷりと行くよッ！ほらッ！お尻の数を数えてッ！！』

ビシィ～ッ！！！

”うぐぅ・・　ひとぉ～つぅッ！”

ビシィ～ッ！！！

”きぃ～いっ！ふたぁ～つぅ！！”

”嫌ぁ～っ！みっつは嫌ぁ～ああっ！”

ビシンッ！！　ひぎぁ～っ！　みぃ～つぅ！

『変な合いの手を入れるから狙いが狂ったじゃないかぁ・・まったく・・お仕置き中は、余計な事は言わないのっ！

ごめんなさいと泣き声だけで充分なんだからぁ～、判ったかなぁ！？』

ビシン！ビシン！ビシン！！

″ふがぁ～ああっ！″

『今のは数に入れないからね！じゃ、行くよっ！』

″うぎゃぁ～っ！許してぇ～、もう駄目ですぅ～っ！こ・・今度悪い子だったら・・どんなお仕置きでも受けますから・・
今日は・・今夜だけは・・お願いですから、許して下さい・・うぐぅ・・せ・・生活態度も本当に・・本当に改めますから・・″

『今の・・心の底からの言葉だったね・・良いよっ♪ケインの残りの数は僕のお膝の上で・・そうだな・・
お手手でお尻をペンペンで終わりにしてやろう・・初日だからしかたないかぁ～』

美香はゆっくりとお仕置きマシーンから下ろされ、山口の暖かくて頼りがいのあるそんな、膝の上へまるで

倒れ込む様にうつ伏せとなった・・仕上げの OTK スパンキングはとても優しく・・真っ赤に腫れた尻をまるで

リセットするかの様だった。

彼女にとって心地よいとも言える、山口のスパンキングにうっとりした表情を浮かべながら、両手で彼の足首を

掴んで離そうとはしなかった・・それは、ずっとこのまま、優しくお尻を叩かれていたいという気持ちの表れで・・。
美香は蚊の鳴く様な声で・・時を忘れるかの如く"ごめんなさい"ごめんなさい"を連呼し心の声を漏らし続けた・・

＜＜ご挨拶＞＞

サンプル版は如何でしたか～？本編には病院等の施設モノ作品やママや怖いお姉様達のとても厳しい

スパンキングストーリーがたっぷり読めますよ♪日本ならではのお仕置き小説をたっぷり堪能して下さいね♪

お仕置き専門サイト「ママのお仕置きは膝の上」

作者：おくむらかんち